

ウムチョ ムゥイーザ通信 No. 9

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。



今年からルワンダの新学期は、政府の指導により、1月からスタートすることになりました。

以前は、9月に新学期がスタートしていましたが、過渡期に当たる本年は、産まれ月で考えると、いつもの年より、4ヶ月分多い期間の子供達を受け入れることとなり、1年生は2クラスのスタートとなりました。

今年の新入生を迎え、生徒数は、総勢350名を超えました。

私達の会は、ルワンダから内戦の混乱を逃れて、福島に家族で滞在するルイズさんとの出会いによって、ルイズさんの夢の学校を作るお手伝いがしたいと思った主婦達の集まりからスタートし、何もわからないままに、がむしゃらに活動を進めてきました。

最近知ったことなのですが、2000年に国連が設定した、「ミレニアム開発目標」というものがあるのだそうです。そこには、2015年までにどのような開発を実施していくかという目標と指針が示されています。8つの目標があり、目標2では、『普遍的初等教育の達成』として、「2015年までに、全ての子供が男女の区別なく初等教育の全過程を終了できるようにする。」と謳われています。そして、目標8の中では、「開発途上国と協力し、若者がそれなりに生産的な仕事に就くための戦略を策定・実施する。」とも謳われています。



学校が出来て子供を受け入れ、自立のための職業訓練も視野に入れた学校作りをしている私達の活動は、ほんのわずかとはいえ、この「ミレニアム開発目標」の達成のためのお手伝いになっていたのだと気づき、本当にうれしい気持ちになりました。

また、JICAの「ピース・トーク・マラソン」が、いわき市で開催され、ルイズがゲストスピーカーとしてシンポジウムに参加した際、一緒に劇作家の平田オリザさんから、とても重要なことを教えていただきました。

オリザさんは、こんなことをおっしゃいました。

「途上国が近代化の国を作る過程では、文学とか音楽とか美術は必ず必要です。生きていくために、まず役に立つことを教えようという観点から、後回しにされがちですが、それまで虐げられてきたり、抑圧されてきた人たちが、自由を獲得するということは、自分の気持ちを言葉や形や音に表現できる術をもつということに他ならないからです。『ルワンダの教育を考える会』では、日本の先生方が、ルワンダの学校を訪れた際、音楽や図工の授業をされていると聞きましたが、それは、とても重要な意味を持つことだったのです。」(参考文献 福島民報新聞 2005年2月21日付記事)

私は、今まで母親としての勤のようなもので、ルワンダの子供達にも、「ワー！きれい、ワー！楽しい」、そんな思いをさせてあげたいと願い、これからも音楽や図工の授業は続けていきたいと考えていたのですが、このような重要な意味をもっていたことを知り、ますますうれしくなりました。

外務省やJICAも、私達の活動に大変理解を示してくださっています。

これからもルワンダの平和のために、私たちに、コツコツと活動を進めていきたいと思えます。ご協力よろしくお願いいたします。

『地球のステージ』を終えて

平成16年12月4日(土)、桑山紀彦氏をお迎えして、チャリティーコンサート「地球のステージ」が、桜の聖母短期大学マリアンホールで開催されました。

その時の感想を、大寺智子さんから桑山氏へのお手紙でをご紹介します。



大寺さんと桑山氏

昨年12月には、福島でのコンサートで、大変お世話になりました。すぐにでもお礼のお手紙をと思っておりまして、大変おくれまして、失礼いたしました。お忙しい仕事の中で、あのように精力的にステージで活躍なされ、多くの人々に感動を与えている姿に感銘を受けました。ご自分の体験や出会い、感動を、自分の言葉とメロディーで歌にし、ご自身で演奏なさるからこそ、ストレートに私たちひとりひとりとどくのだと思いました。アジアやアフリカの自然の美しさと、そこに住む人々のやさしさ、おおらかさが伝わってきました。そして、何よりも、常に等身大で人々とかかわろうとする桑山さんがいて…本当にそこが楽しいステージで、来ていた子どもから大人まで、引きつけられてしまいました。

私たち「ルワンダの教育を考える会」としては、コンサートまでの準備期間があまりとれずに当日をむかえてしまったために、十分に客席をうめることができなかったことが反省点です。しかし、ステージの内容がよかったので、来ていただいた多くの方から、「感動しました。」「とってもすばらしいステージでした。」の声が聞かれました。

本当に桑山さんに来ていただいてよかったなあと思っております。

桑山さんのステージのよさは、「最後まで、自分の言葉で語る等身大の桑山さんがいる」ことだと私は思いました。自分一人で世界に飛び出して行き、人々とかかわり、自分の感性でとらえたことを歌にしたり、影像にしたりして、みんなに伝えていくという姿勢が一貫していました。そこには、きれいごとばかりではなく、大きな現実問題もあってね…戦争、貧困、病気、今回のインド、スマトラ沖大地震のような災害…それでも希望を捨てずにたくましく生きていく人々がいてね…と、日本の全ての子どもたちに見せたいと思いました。また、ぜひ、「地球のステージ2」もお願いしたいと思いました。

今後のさらなるご活躍をお祈りしております。言葉足らずではありますが、お礼の手紙にさせていただきます。

スタッフの皆様にも、よろしくお伝え下さい。

平成16年10月2日・3日の土日、東京の日比谷公園で開催された「国際交流フェスティバル」に当会が初参加して、首都圏デビューを果たしました。

初日は、最高の秋晴れに恵まれ、たくさんの方々が訪れて、まるでお祭りのような賑わいでした。私達のブースにも、大勢の方々が来てくださり、ほどよい疲れと共に、アッという間に一日が過ぎてゆきました。

さて、翌日は、早朝からあいにくの雨。横なぐりの強い雨に濡れながら、会場に向かいました。防水されていないテントは水を含んで重くなり、時々、テントのはしにたまった水をカサの先でつついて流す作業が加わりました。出展物が雨にぬれないよう狭いブースの中央に集め、テントから落ちてくる雨水を拭きながらの一日でした。前日とはまったく正反対の状況で、ブースの中に水がたまって、早々に閉じてしまった所もありました。



ところが、ところがです！私達のブースには、強い雨の中を「パンフレットをください」「ルワンダの事を教えてください」「ルイズさんのお話が聴きたいのです」など、若い人々が来てくださり、狭いブースの中で、肩を寄せ合いながらの話が弾みました。

前日の賑わいはありませんでしたが、強い雨の中をわざわざ足を運んでくださった方達との出逢いは、格別な思いがあって、とても嬉しくありがたいものでした。

どんな状況においても、感謝の心で人々をお迎えし、お話できたことは、私達にとって、貴重な体験だったと、喜びを胸に、帰路につきました。

「国際交流フェスティバル」に参加して
齋藤 照子



ルイズさんが参加したシンポジウム、「ピース・トーク・マラソン 2003-2007 in 福島」が、1月29日（土）・30日（日）の2日間にわたって、いわき市常磐市民会館で開催されました。プログラムの第1部は、ルイズさん、劇作家で演出家の平田オリザさん、歌人の田中章義さんの3人によるピース・トークでした。進行役の田中さんは、ウムチヨ・ムウイーザ学園の様子を会場のスクリーンに映し出しながら、ルイズさんのルワンダと難民キャンプでの体験、教育と学校建設にける思い、そして、私たちの会の活動を中心に話を進めて下さいました。私は、ロビーで民芸品とカードの販売を担当していたのですが、ピース・トークの中で、田中さんが、カードを作っているストリート・チルドレンのことに触れて下さったおかげで、たくさんの方々が販売ブースを訪れて、写真を見たり、カードを購入したりして下さいました。



第2部は、平田オリザさん作・演出の演劇「もう風も吹かない」の上演と、それについての平田さんと観客のディスカッションでした。20XX年、日本の経済力は衰え、政府にも海外援助の余力はなく、青年海外協力隊の派遣は、今回でうち切り。自分の任期が終了したら、その派遣先への援助は終わり。引き継ぎの隊員は来ない。そんな状況に置かれている協力隊の訓練生たちの物語です。自分は派遣先の国の人々の役に立てるのか、自分のする仕事に意味はあるのか。実は、私も協力隊経験者なのですが、派遣打ち切りという特殊な状況下でなくても、隊員が悩むことって、今も昔も変わらないなあと感じました。

大きなホールステージの上に、客席とセットを配したこじんまりとした会場で、出演者や観客の息づかいが、互いに感じられるような、暖かな雰囲気の素敵なイベントでした。

「ピース・トーク・マラソン」報告

村田 富美恵

◎ お知らせ ◎

★たいへん遅くなりましたが、2003年度の
収支報告をいたします。(円)

収 入

会費	630,000
事業収入	780,290
寄付金等	6,062,892
助成金	1,170,000
その他の収入	842,908
計	9,486,090

支 出

国内事業費	79,110
バスを送る事業費	2,530,653
教育支援事業費	4,610,000
管理費	1,526,818
計	8,746,581

繰越金 739,509



◇ 会費は下記へお願いします ◇

正 会 員 1口 5,000円

賛助会員 1口 10,000円

郵便振替口座 : 02290-0-97126

加 入 者 名 : NPO法人 ルワンダの教育を考える会

会員の皆様へ

☆住所等の変更がありましたら、事務局まで、ご連絡下さい。

☆平成17年度の会費の納入は、4月1日付からといたします。

3月31日までの納入分は、平成16年度分となります。

(早めに納入下さった方は、事務局まで、ご連絡下さい。)

新年度も、引き続き、ご協力をお願いいたします。

☆**賛助会員の皆様へ**

4月より、昨年、ご返信いただいた、ご希望を反映させていただきます。よろしくお願いします。

時の過ぎ行くのは、早いもので、もう3月、年度末です。今年の花粉症の具合は、どうでしょうか？
とはいえ、この会報を作成している、今現在、福島は雪です。寒いですが、暖冬と言われているところ、どうなのかな？と思えますよね。春が待ち遠しい、今日この頃です。

編集後記



ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋 啓子
副理事長 カンベンガ・マリルイズ

〒960-8252 福島県福島市御山字中川原44-2

サンコーポ1号棟 102号室

TEL/FAX: 024-533-8289

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org/>

e-mail: info@rwanda-npo.org